

## 令和元年度 記者懇談会（第3回）の記録

日 時 令和元年6月27日（木）午後4時30分  
場 所 水道庁舎4階 会議室  
記者数 5人  
同席者 飯川副市長、若山副市長、総務部長、経済部長  
次 第 1 2019 いわみざわ彩花まつりについて  
2 北海道そらちグルメファンド2019について  
3 その他



## 2019 いわみざわ彩花まつりについて

### 説明内容

#### (市長)

今年の「いわみざわ彩花まつり」は、7月8日（月）から13日（土）まで6日間にわたり、岩見沢市観光協会が主催し、あやめ公園、バラ園、中心市街地、駅東市民広場などにおいて開催されます。主な内容として、あやめ公園では168種12,000株のあやめや花菖蒲（はなしょうぶ）を、バラ園では630種8,800株のバラを鑑賞していただけます。現在のところ、あやめは若干ピークを過ぎておりますが、バラは半分ほど咲いており、あやめ公園の花菖蒲と併せて、ちょうど彩花まつりの頃に見頃を迎えるとのことでした。

また、13日（土）午前11時30分から、バラ園で、野だてや箏曲の演奏、盆栽の展示のほか、弦楽四重奏やバラの販売なども予定されています。あやめ公園では、毎年恒例となりました、あやめ団子の販売やあやめの株の販売を行います。

なお、バラ園では今月22日から「ローズフェスタ」が既に開催されており、バラ園での彩花まつりの各種イベントは、これとの共催となります。

次に、今年で47回目を迎える「観光おどりパレード」は、7月12日（金）午後6時から、中心市街地で開催されます。昨年度は30団体1,405名によるパレードが行われました。今年もまた、同程度の規模での実施を見込んでいます。一般参加者による当日の飛び入り参加も可能ですので、多くの方の参加をお待ちしています。なお、コースについては昨年と同様です。

また、同じく12日（金）には、イベントホール赤れんがで、まちなか朝市実行委員会とジョインアライブがコラボする「マチナカヨルイチ with ジョインアライブ前夜祭」が行われます。

昨年度は、アマチュアのアーティストによる音楽祭を開催しましたが、今年度は、翌13日（土）から開催されるジョインアライブ出演アーティスト3組による無料のスペシャルライブを予定しています。また、隣接する駅東市民広場公園では、市内企業を中心とした飲食物販ブースを展開する「お祭り広場」を開催します。

その他、昨年度は実施することができませんでしたが、21日（日）午後8時から、北海道グリーンランド遊園地で3,000発を打ち上げる花火大会が開催されます。当日は、運転免許証など市民と証明できるものを持参されると入園料が無料となり、午後4時以降は、駐車場を含め、市民・市外の方を問わず無料開放となります。

## **質疑応答**

### **(プレス空知)**

ジョインアライブ前夜祭と観光おどりパレードの時間帯が重複することについて、どのようにお考えですか。

### **(経済部長)**

ジョインアライブ前夜祭での演奏は、観光おどりパレードが終了する午後 7 時 15 分に始めます。

### **(プレス空知)**

パレードの終了時間は例年そのくらいでしたか？ 例年は午後 8 時くらいでは。

### **(市長)**

去年からコースと時間帯を変更しています。

### **(経済部長)**

前夜祭とパレードの時間帯が被らないよう、パレードが終了する午後 7 時 15 分に前夜祭の演奏が開始されます。ただし、閉会式や表彰式はパレードの後になりますので前夜祭の演奏と被ることになります。

### **(プレス空知)**

ということは、パレードの踊り自体は午後 7 時くらいまでということですか。

### **(経済部長)**

予定では午後 7 時 15 分まで。

### **(プレス空知)**

その後に表彰式などがありますね。すべてが終了するのは何時くらいですか。

### **(経済部長)**

表彰式が終わるのは午後 7 時 55 分の予定です。

### **(プレス空知)**

まとめると、観客には、観光おどりパレードを楽しんでいただいた後、その流れでお祭り広場に行っていただき、ジョインアライブ前夜祭も楽しんでいただければ、ということですね。

### **(経済部長)**

そうですね。

### **(プレス空知)**

ジョインアライブ前夜祭は今年単発の企画かもしれませんが、来年以降も企画してほしいという思いはありますか。

### **(市長)**

来年のジョインアライブがいつ開催されるのかわかりませんが、できれば、両者のコラボレーションができればと思っています。

## **（北海道新聞）**

ジョインアライブは10回目になり、北海道の夏の音楽フェスティバルを代表するイベントになりました。その開催期間中、多くの人々が岩見沢にやってくることに注目し、ジョインアライブと関連付けたイベントを開催したり、あるいは上手く活用するような動きが広がっていけばいいなと個人的に考えています。このことについて、市長はどのようにお考えですか。

## **（市長）**

ジョインアライブは今年で10回目ですが、マウントアライブの山本社長と開催内容を相談しながらここまで来ました。

ジョインアライブの特徴としては、遊園地とコラボレーションして開催する夏フェスであることから他の夏フェスと異なり、家族でのご参加が多いところ です。

現在、地元飲食店の出店に限定した「岩見沢バル」というブースを設けたり、彩花まつりとのコラボレーションも行っており、このような連携を継続できたらいいと思います。

また、ジョインアライブの開催期間中には市内の宿泊室が満室だそうですし、会場だけではない市内にもその波及効果が及んでいると考えています。

## **北海道そらちグルメフォンド 2019 について**

### **説明内容**

#### **（市長）**

第6回となる「北海道そらちグルメフォンド 2019」です。

今年は、8月31日（土）、9月1日（日）の初の2日間開催を予定しています。

1日目は上級者向けのハイパーエキセントリックライド、2日目はロングコース、ミドルコース、ビギナーズショートと従来スタイルのグルメフォンドとなっています。

まず、2日間開催となった経緯について申し上げます。

このイベントは、毎年道外からの参加者が増加しており、道外のお客さまから「せっかく北海道に来たのに1日で終わるのはもったいない」というご意見をいただきました。また、昨年度のグルメフォンド前日に開催した非公式ライドが大変好評だったこともあり、今年は上級者向けのハイパーエキセントリックライドとして初めて開催します。

ハイパーエキセントリックライドは、ゲストの竹谷 賢二さんをはじめとした上級ライダーにご参加いただき、そのスピードにどこまで付いてついていけるか挑戦するライドです。なお、コース上に矢印看板などの設置はなく、またパンクなどの対応も参加者ご自身で行っていただくこととしています。コースについても、いわみざわ公園バラ園駐車場を発着地として、栗山町、夕張市を巡り、

丁未峠を上って万字側に下りて岩見沢市に戻ってくるアップダウンの多い上級者向けのコースです。

ちなみに私もかつて自転車に乗っていましたが、万字交通センターから丁未峠の頂上まで私の脚ですと55分くらいかかりました。上級者で30分くらいですかね。おそらく竹谷さんはこれを大きく上回るスピードで駆け上がるのではないかと思います。逆の方向からではありますが。

次に、2日目は従来通り、ロングコース120キロ、ミドルコース80キロ、ビギナーズショート50キロの3コースを準備しています。

去年は、野外音楽堂キタオンを発着地とし、栗山町、由仁町、長沼町、南幌町を巡る南回りコースでしたが、今年は、同じく野外音楽堂キタオンを発着地とし、月形町、美唄市、三笠市を巡る北回りコースとなっています。去年に引き続き、コースの随所に未舗装の道を走ることができるオプションのグラベルコースも準備しています。

さらに、ゲストライダーとして、1日目のハイパーエキセントリックライドにも参加していただく竹谷 賢二さんをはじめ、自転車ブロガー、ツイッターユーザー、ユーチューバーが参加する予定です。

なお、大会の運営では、昨年同様、陸上自衛隊岩見沢駐屯地第12施設群にもご協力をいただき、2日目のロングとミドルの先導車となります。

また、エントリーの締め切りは7月29日（月）まで。

6月24日現在の各コースの申し込み状況は、ハイパーエキセントリックライドが定員100人に対して36人、ロングコースは定員400人に対して259人、ミドルコースは定員550人に対して272人、ビギナーズショートは定員50人に対して50人の応募となっています。

ビギナーズショートは定員に達していますので申し込みを締め切りましたが、その他のコースはまだ受付中です。

去年は、初めてエントリーが1,000人を超え、道内最大級のサイクリングイベントとなりましたが、今後も南空知すべての自治体は何らかの形で連携し、北海道のグルメフォンドのトップランナーとして満足度の高いイベントとなるよう努めてまいります。

## **質疑応答**

### **(プレス空知)**

市長は参加されますか。

### **(市長)**

自転車に一番よく乗っていたときに、同じコースを結構走っていました。

プライベートで走ったときには、玉泉館跡地公園の駐車場をスタートし、それから毛陽を抜けて万字を抜けて丁未峠を上がって、そこから旧メロン城の横を抜けて夕張市街、そこからトンネルを抜けて継立、そこから三栗線に入り、戻って来る。これがだいたい100キロくらいなんですね。

今回もこれと近い距離やコースですが、かなりハードなコースになります。私の今の脚では無理ではないのかなと思います。

**(プレス空知)**

数年前にエントリーして完走できなかったとき、「次こそは」というお話をされていましたが。

**(市長)**

そのような意気込みもありましたが、実際のところ、次の予定があつて途中で抜けたのが理由でした。ご参加される皆さまにはお楽しみいただきたいと思います。

**(読売新聞)**

グルメフォンドは、どのような部分がグルメなのでしょう。

**(市長)**

スタートやゴールと、コース上のポイントごとに地元産の「グルメ」を用意しています。参加者が食を楽しみながらコースを回ってくるということから「グルメ」フォンドとしています。

**(読売新聞)**

それぞれの食べ物が地元の物ですかね。

**(市長)**

そうです。グルメフォンドは、タイムを争うサイクリングではありません。

**(読売新聞)**

具体的にはどのような食べ物が出るのでしょうか。

**(市長)**

今まではキジラーメンなどいろいろな食べ物が出ていました。

**(経済部長)**

距離によってエイドの数など変わってくるのですが、今回、岩見沢、月形、美唄にメインエイドがありまして、例えば、岩見沢であれば牛乳ラーメンやきじめし、月形であればジンギスカンやトマトジュース、美唄であればもつそばなどを提供します。ゴール地点で用意する食べ物は、現在のところすべて出揃っている訳ではありませんが、栗山町のくりやまコロッケや長沼町の温泉豆腐などを提供します。また、コースの途中で移動エイドというものを設けており、ここではそれぞれの特産品、例えばメロンゼリーやきびだんごなどのほか、水も用意しています。

## その他

### 質疑応答

#### JR 室蘭線について

##### (北海道新聞)

先日、JR 室蘭線沿線 5 市町の地域負担額 計 785 万円が示されましたが、このことをどのように受け止めますか。また、今後、道の予算が固まってからの話になるのでしょうか、どのような基準などにより沿線 5 市町の負担割合を決めていくことになりますか。

##### (市長)

道から提案されたのは、記者ご指摘のとおり 785 万円ですが、その積算の根拠となっているのが、均等割、人口割、財政力割で、これは自治体間の負担額を積算する場合に一般的に使われる基準です。均等割が 50%、人口割や財政力割がそれぞれ 25% ずつだと思いますが、そのように認識しており、基本的な積算ルールにより負担額が示されたと考えています。

また、協議会の議論ですが、道の補正予算が成立した後で協議会として議論していくことになりかと思えます。その際にも、道の積算ルールが基本になるだろうと思っています。

当然のことながら、JR 北海道には一層の経営努力を求めていくことになりまし、地元としては利用促進や情報発信にも取り組んでいかなければならないと認識しています。

##### (北海道新聞)

それぞれの市町では 9 月の市議会定例会で補正予算案を提出し、各市町が負担を行うということになるのでしょうか。

##### (市長)

そのようなスケジュールになると思えます。

#### 次期総合戦略の策定について

##### (北海道新聞)

もう 1 つ別件で。

4 月の記者懇談会でご説明があった「第 2 期総合戦略」では、「夏に向けて現行戦略の検証と次期戦略の骨格を作成し」とありましたが、作業はどの程度進んでいますか。

##### (市長)

今年度に入り、従来の「人口減少問題対策本部会議」を「地方創生推進本部」に改称しました。

この本部体制の中で、現行戦略の検証を行い、次期戦略の方向性を打ち出していくことになりかと思えます。

作業としましては、若手・中堅職員で構成する「組織横断型課題対策チーム（CFT）」が検証作業を進めています。4月中旬から5月下旬までは、各部局での事業の成果や課題の検証作業を行いました。その後、6月14日に第1回 地方創生 CFT 会議を開きました。そして、明日6月28日（金）に第2回 地方創生 CFT 会議を開きます。7月中旬には第3回 地方創生 CFT 会議を開催する予定です。さらに、7月上旬から始めるサマーレビューでも検討する予定です。

また、6月21日、「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」が閣議決定され、示されました。

そこで示された方向性やこれまでの課題、検証内容などを踏まえ、7月中には新しい総合戦略の基本的な方向性を定めていきたいと考えています。

総合戦略が最終的にまとまるのは年明けの作業になろうかと思えます。国は、12月に総合戦略を策定する予定となっていますので、その内容も把握・研究しながらということになるかと思えます。

## **児童虐待の対策について**

### **（北海道新聞）**

もう1つ別件で。

6月の市議会定例会での一般質問でも採り上げられた内容ですが、児童虐待について。

教育長のご答弁では、市と学校の連携強化や情報共有を進めていくというお話をされていたと思いますが、地域における児童虐待という問題に対して、行政として、どのようにそういったことが起こらないようにするかという考え方を改めてお聞かせください。

### **（市長）**

岩見沢市では、子どもが生まれてすぐの健診時からそういった気付きの場を設けています。

また、法令などに定められていることは十分に行っています。

私ども一番効果的だと考えていることは、えみふるに子育て支援の機能を集約していますので、そこでの気付きの体制が十分図られてきています。

あと、学校での取り組みです。子ども発達支援センターで統合しながら行っています。

虐待の要因はさまざまです。現在、いろいろな相談窓口がありますが、そこに行かなければ相談できないというのではなく、それぞれお悩みのところでご相談いただく際にそういうことも相談できるような体制と情報共有を図っていきます。

したがって、関与する地域や民生委員など、見守りを厚みを付けて継続的に実施していくことがやはり一番重要だと思います。もちろん、そういった際には、専門家のアドバイスを受けながら対処していくことも必要だと思います。



## ふるさと納税について

### (プレス空知)

弊社の記事、ふるさと納税の返礼品の件です。

空知管内の多くの地域では、地場産品を返礼品として送る業者が、地元企業におおむね限定されているところですが、岩見沢市の場合、要綱を見ても、地元以外の企業でも参入できるようになっています。このことについて、ご所見をいただければと思います。

### (市長)

岩見沢市のふるさと納税は、適切に制度運用していると思っています。

岩見沢市ふるさと応援報奨贈呈要綱で、返礼品の要件は、①市内で生産、製造又は加工されたものであること、②市内の原材料を使用したものであること、③市内で提供できるサービスであること、この3要件です。

返礼品に地場産品を使っている以上、地場産品として市外の業者と取り引きしている生産者の方々もいらっしゃいますので、そういった意味では適切に運用していると認識しています。

### (プレス空知)

そうは言いながらも、多くの自治体、どの地域を見ても、地場の産品を扱っている地場産品を要件としているところが比較的多いのかなと思う中で、岩見沢市の人口や農業などの規模で、市外の業者に門戸を広げてまで返礼品を用意しなければならない必要性はあまり感じませんが。

### (市長)

ふるさと納税の返礼品は地場産品である以上、地場産品を加工・製品化するに当たり、地元生産者が一定の利益を得て行っている活動、また、岩見沢のPR、また、岩見沢の地場産品の消費拡大など、そういった意味では全く支障がないと思っています。

返礼品のほとんどは、市内業者に取り扱っていただいています。そこで、市外の業者がなぜ？と、返礼品を取り扱う市内業者にはそう思われるのかもしれませんが、私たちは地場産品のPRと消費拡大、そしてふるさと応援の趣旨にのって実施し、適切に運用していると思っています。

### (プレス空知)

岩見沢市は、ふるさと納税の寄付額が堅調に推移しています。年々、横ばいや微増など着実に右肩上がりになっています。ふるさと納税がスタートしたのは、市長が就任されてからだと思います。岩見沢市のふるさと納税が堅調に進んでいることについて、ご所見をいただければと思います。

### (市長)

去年は6億3千万円くらい、一昨年は4億円くらい、3年前は2億円くらいでした。

このように増えているのは一つの要因があるのだと思っています。

岩見沢市は、専門業者に委託して業務を行っています。と言うのは、市職員が寄付を扱う場合、専任の職員を配置しなければなりません。全国にいらっしゃる寄付をしたいという方に、岩見沢のふるさと納税を知っていただく機会を多く設けなければならないということで、専門業者のサービスを利用しています。

ここまで伸びるとは思っていませんでしたが、やはり圧倒的にお米の人気があります。岩見沢のお米に対する評価はとても高いものがあります。それが地場産品として寄付額を大きく押し上げた一因であること。そのほかにもサービスを提供するようなメニューなども設定していますが、返礼品としてお米の要望が多いです。

寄付いただいた趣旨にのっとって、岩見沢市の貴重な財源として使わせていただいています。

#### **(プレス空知)**

これまでは寄付していただいた方に 1 年間送っていた広報紙を、現在は送らなくなったのは何故ですか。

#### **(市長)**

総務省により、ふるさと納税の経費は 5 割程度と示されている中で経費を減らすため、広報紙の送付を取りやめました。その代わりに、ホームページなどの方法でお知らせしていくとともに、岩見沢を訪れ、サービスを受けていただく、例えばメープルロッジの宿泊券などのメニューを増やしたところです。

#### **(飯川副市長)**

広報紙を送付しても「送付は必要ありません」とおっしゃる方も多かったですね。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)